

井田山昆虫観察 土壌動物を調べてみよう！

どじょうどうぶつ 土壌動物とは？

どじょうどうぶつ
土壌動物とは、お ち ば つち なか す さまざま どうぶつ
大きなものではミミズやモグラなど、からだのなが が すう 十 cm を 超えるものもいますが、むし
を使わないとよく見えないような、とても ちい さいものもたくさんいます。

おお どじょうどうぶつ お ち ば どうぶつ したい ふん た つち
多くの土壌動物は、落ち葉や動物の死体、糞などを食べて、土にかえします。こうし
てできた土はとても 栄養が豊かで、もり しょくぶつ げんき そだ
自然界における「ごみ」のようなものです。どじょうどうぶつ
土壌動物たちは、これらの「ごみ」を、植物
の 栄養としてリサイクルしてくれているのです。

どじょうどうぶつ しぜん ゆた ひょうか 土壌動物による「自然の豊かさ」評価

どじょうどうぶつ しら ばしよ しぜん ゆた ひょうか
土壌動物を調べることで、その場所の「自然の豊かさ」を評価することができます。
どじょうどうぶつ なか にんげん えいきょう う い
土壌動物の中には、人間の影 響を受けると生きていけなくなってしまうものがあります。
このような種類（しゅるい）の動物（どうぶつ）がたくさん 生きのこっている場所は、あまり人間の影 響（えいきょう）を受け
ていない、自然（しぜん）の豊（ゆた）かな場所（ばしよ）であると評価（ひょうか）することができるわけです。

ぐたいてき ほうほう
具体的な方法（ほうほう）としては、どじょうどうぶつ
土壌動物（どうぶつ）のうち 32 の動物群（どうぶつぐん）を A、B、C の 3 つのグループ
にわけて、それぞれに点数（てんすう）をつけます。A グループの動物（どうぶつ）は、人間の影 響（えいきょう）を受けると
すぐにいなくなってしまうもので、5 点の得点（とくてん）が与（あた）えられます。C グループは、人間の
影 響（えいきょう）が強くても生き残（のこ）っている動物（どうぶつ）で、1 点（てん）が与（あた）えられます。B グループはその中間（ちゅうかん）
で、3 点（てん）です。出てきた動物（どうぶつ）のそれぞれの得点（とくてん）を合計（ごうけい）した点数（てんすう）が、その場所（ばしよ）の評価点（ひょうかてん）
です。点数（てんすう）が高いほど、その場所（ばしよ）の自然（しぜん）が豊（ゆた）かであるといえます。

ちょうさ かた 調査のやり方

- それぞれの調査地（ちょうさち）で、30cm x 30cm の枠（わく）を設置（せっち）する。
- 枠内（わくない）の落ち葉（おちば）や土（つち）を深さ（ふか）5cm くらいまで掘（ほ）り採（と）り、ビニール袋（ぶくろい）に入れる。
- ひろげたビニールシート（もしくはバット）（うへ）の上（おちば）と土（つち）をふるいにかける。
- 出てきた虫（むし）をピンセット（きゆうちゆうかん）やワリバシ（つか）を使って捕（つか）まえ、容器（ようき）に入れる。
- ひととおり虫（むし）を捕（つか）まえたら、虫（むし）めがね（むし かんさつ）で虫（むし）を観察（しりょう）し、資料（さんこう）を参考（なまえ）にして名前（しら）を調（しら）べる。
- 名前（なまえ）がわかったら評価シート（ひょうか）に記入（きいゆう）し、点数（てんすう）を計算（けいさん）する。